



「ありがとう」の反対語はなんだろう？仏教的な意味合いを含ませて言うならば「あたりまえ」という言葉が適切のように思えます。私はかねてからこの世の中に「あたりまえ」のことなど何一つないことを、実生活を通して感じてきました。それは私がこの世に生を受けたことから始まり、その後の私に関わる全てのことが「有り難い」ことの連続によって、今の自分を成り立たせているということを感じるからです。

「有り難い」とは、そう有ることが難しいということ。様々な「有り難い」ご縁によって生かされ続けているにも関わらず、私たちはそんな自分を顧みることなく、すべてを当たり前のこととして受け止め、不平不満ばかりで生きているように思えます。感謝という言葉も自分の都合で使っていることが多いようで、都合の悪いことに感謝の思いをいただける人は稀ではないかと思われます。都合の良いことも悪いこともすべてがご縁。すべての事が「有り難い」という世界に生かされるのです。そう思う時、あの妙好人さんたちの、どうあろうとも「ありがたや、ありがたや」の喜び声が、お念仏となって聞こえてくるのです。

お念仏は何かと問われれば、まさにそれは「ありがとう」の心ではないかと思われてくるのです。

ご報告

十日講

九月十日(金) 九時半～十一時

本年は九月に二つの行事が重なってしまいました。ご案内の通り、コロナ感染拡大によって通常行う内容でお勤めすることはできませんでしたが、4月には報徳会を、9月には十日講を、それぞれの役員様のご参集を得て、滞りなく執り行うことができました。ここに謹んでご報告を申し上げます。

御書(しよ)拝読

大正三年に彰如上人(二十二代法主)から、美濃の国一十ヶ寺門徒に「教如上人」を土手で命をかけてお守りした功績に対して感謝の思いも込めて送られてきた書状。

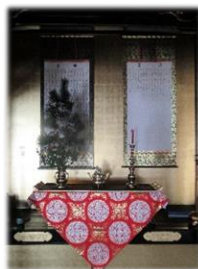


皆様頭を下げて拝聴されておられます。

秋季永代経

九時半～十一時

去る九月二十三日(木)より本年度の秋季永代経をお勤めさせていただきました。一般参詣無しでのお勤めでしたが、門徒を代表して役員の皆様にお参りをしていただきました。三歳の女の子もおばあちゃんに連れられてお参りしてくれてありがたいことでした。



私たちが先祖の法名軸を掛け、九時半よりお勤めいたしました。



法話は本山配信のネット法話ということになりましたが、お念仏を称えることの大切さを約十五分の法話の中ではありましたが十分にお伝えできたことと思っております。

合掌



ご連絡(予定)です。



学習会…十月九日(土) 午後6時半～8時まで。(秋冬時間で三十分早まります)

茶話会…十月開催日(八・十五・二十・二十九日)午後一時半～三時半まで

ふれあいの場として設けています。多くのご参加を。

今月の掲示板

光受寺菜園に実りの秋

光受寺菜園ができて約2か月余り。黒豆、インゲン、蕪、白菜などの野菜が作付けされ、ほぼ順調に育っているようです。ただ水道がないためインゲンなどはほとんど枯渴してしまつたようですが、わずかに残つてもいるようですので、少しは収穫ができて喜んでみます。

9月の初旬には白菜を間引き、おひたしにしてみました。新鮮で柔らかく生姜だまりでいただきましたが、シャキシャキとした感触でおいしくいただきました。



花の実の
のなける
豆もつな
黒まを



大きな花を咲か
せる百日草が咲
いています。



ミョウガの
収穫までも。



白菜と蕪(かぶ)で～す。蕪の漬物大好きなので、こんれからが楽しみで、こなたな楽しみを与您と自然に感謝。門徒さんと

雑行(ぞうぎょう)

雑修(ぞうしゆ)

自力(じりき)

なんぢごしむら心

をふりすん

御文5帖・15通

御文さまには雑行を捨ててとか、雑行・雑修の心を捨ててとかよく出てまいります。雑行・雑修の意味なのでしょうか。

雑行とは正行に対して言ひ言葉です。正行とはだれもが救われる道を指し示す正行(經典を読む読誦の行、瞑想して仏と会ふ觀察行、仏を拜む礼拝行、仏の名を称える称名行、仏の徳を褒め讃える讚嘆供養行)を言ひます。中でも称名行は正定業と呼ばれ「南無弥陀仏」一つに阿弥陀様の願いがすべて込められ他の行は補助的助業として捨てられます。つまり正行以外の善行(自力作善)を雑行といひ、たとえ念仏を唱えても現世の利益を求めての事なら、それは雑修といひます。

新「ナ

十一回連載

樹林

宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年立教開宗協賛テーマ
南無阿弥陀仏 人と生まれたことの意味をたずねていつ
問いつける歩みをともし

7回目



こころの散歩

浄土和讃(十八番)に想つ

真宗聖典の480Pには浄土和讃18番として次の和讃が記されています。

「安養浄土にいたるひと五濁悪世にかえりては 釈迦牟尼仏のごとくにて 利益衆生はきわもなし」これは二種回向を詠んだものです。二種回向は教行信証の「教の巻」にも記載されており「謹んで浄土真宗を案ずるに、二種の回向あり。一つには往相、一つには還相なり」。これまでの真宗門徒の多くは、浄土往生にだけ注目し、還相には無関心であつたきらいがあります。親鸞聖人の思想は、往相にだけ留まるような狭小なものではなく、一切の救済をめざす広大な慈悲の世界にあります。これは真宗外の学者が指摘されていること、今は亡き梅原猛先生は著書の中で何度も指摘されています。

私は80歳代の実践課題に「三昧」を掲げております。念仏三昧。感謝三昧など三昧の生活をめざそうとするものです。もし90歳代を生かしていただけるとすれば、実践課題は「還相」にしようかと、心づもりしています。真宗門徒として人生究極の取り組み課題だと思つてらう。

光受寺御遠念法要

